

新年度が始まり1か月余りが過ぎました。本年度は、2年間の移行期間を経て、いよいよ外国語活動本格実施の年となりました。各小学校では、指導計画の作成、評価の観点、方法等について再度確認を行い、円滑な外国語活動が推進されるようお願いいたします。

また、これまで同様、すべての教員が外国語活動の授業を実施できるよう、校内体制の確立や校内研修のさらなる充実が望まれます。

外国語活動について保護者に説明できるように

今年度から全面実施となった外国語活動。保護者からは、移行期間とは桁違いの関心が寄せられており、小学校教員として、外国語活動に関する様々な疑問を投げかけられたり、説明を求められたりすることも増えることでしょう。そこで、高学年の教員だけでなく、すべての教員が、外国語活動に対して共通理解しておくことが大切になります。

例えば、次のような質問に対して、どう答えればよいのでしょうか。

「小学校から英語を勉強しはじめると、どんな力がつくのですか？」

「うちの子は英語ノートに出てくる単語が書けませんが、大丈夫でしょうか？」

「小学校から塾に行く子がいますが、外国語活動の成績を上げるためには塾に行った方がいいのですか？」

保護者の関心は、「外国語活動でどのようなことをするのか」「我が子にどんな力がつくのか」「成績はどうなるのか」といったことに寄せられていると思われまます。今一度、次の点について確認し、全教員が保護者に対して適切に説明ができるようにしておきましょう。

【外国語活動の目標】

外国語を「**通じて**」

言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、

コミュニケーション能力の「**素地**」を養う

【外国語活動の評価】

【観点】(参考)

- コミュニケーションへの **関心・意欲・態度**
- 外国語への **慣れ親しみ**
- 言語や文化に対する **気付き**

…これらの観点に沿って、文章の記述による評価を行います。

【外国語活動の内容】

「話す」「聞く」といった音声面を中心とした **体験的な言語活動**

参観日等に保護者に見ていただくのが一番わかりやすいでしょう。

外国語のスキルそのものを評価するものではありません



以上のようなことを保護者の方に理解していただければ、「単語を書くこと」「塾」「成績」等に関する心配は大幅に軽減できるのではないのでしょうか。また、体験的な言語活動を通して得られた「関心・意欲・態度」「慣れ親しみ」「気付き」が、中学校の「外国語」学習におけるコミュニケーション能力の土台となることについても、保護者にお伝えしておきたいものです。

中学校の外国語(英語)教育は？

小学校外国語活動から中学校外国語(英語)教育へのなめらかな接続のために、小中の連携が大切であることは、Vol. 24においても触れましたが、平成24年度に中学校の新学習指導要領が全面実施となります。本年度の小学校6年生が、来年度中学校1年生として新学習指導要領のもと外国語(英語)を学習することとなりますので、中学校の外国語科への理解も深めておきたいものです。

【外国語科の目標】

- ① 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。
- ② 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。
- ③ 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

【授業時数】

各学年105時間

↓
10時間

【指導する語数】

900語程度まで

↓
1200語程度

小学校で「聞くこと」「話すこと」については、一定の素地が育成されることを踏まえ、新たに「読むこと」「書くこと」が加わり、4技能の総合的な育成を強調しています。



授業時数は増えていますが、指導する語数の増加を除いて文法事項等の新たな指導事項の増加はありません。

時数の増加分は、繰り返しの機会の増加や、知識・技能の活用を図る言語活動の充実で充てることとなります。

お知らせ

「外国語活動・英語教育連携研修会」

日 時：平成23年11月22日(火)

場 所：防府市立富海小学校・防府市立富海中学校

内 容：午前の部：授業公開(2時間)

(小学校6年生担任と中学校英語教員とのTTも予定しています。)

午後の部：研究発表

講 話 等

(国立教育政策研究所教育課程研究センター教育課程調査官をお招きします。)

当日午後は、県下の各小・中学校からお一人ずつご参加いただく予定です。

※ 詳細については改めてご案内します。